

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>入居者の家族や友達、地域の自治体にも協力してもらいながら家族的な雰囲気を大切にしている。</p>	○	自治体からのボランティアや地域の行事への参加を、増やしていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>職員1人ひとりが理念について理解しており、勤務前に確認している。</p>	○	職員が、勤務前に理念を確認している。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> <p>家族、入居者にも分かりやすいように理念をリビングに提示している。また、ホームページでホームの様子を紹介したり、年2回「メイプル通信」を発行し、理解していただけるよう取り組んでいる。</p>	○	ホームページを定期的に更新していく必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近くの神社に散歩に行き交流を深めたり、デイサービスなどの友人や知人が遊びに来てくれている。</p>	○	もう少し、地域の行事に参加し交流を深める必要がある。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域の文化祭や祭りに参加できている。また、運営推進会議に地域の担当者に出席いただいている。</p>	○	もっといろいろな所へ外出し、交流を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、事業所の力を活かした地域への貢献は、行えていない。今のこの状況(2ユニットで要介護4以上が9名、スタッフがギリギリ)では、入居者の方々の安全、安心を守ることにできていない。	○	仕事に追われている毎日だが、役に立つことがあるなら(求められたら)前向きに考えたいと思っている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価を重く受け止め改善が必要な項目については、カンファレンス時にしっかりと話し合いを行っている。		運営推進会議で評価の報告をし、改善が必要な項目について意見、助言をいただき参考にしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3か月ごとに開催し、メイプルの活動状況を報告したり、外部評価があれば改善するための意見をいただいたりしている。	○	2~3か月ごとに開催し、入居者の状態、状況、メイプルでの取り組み、グループホームの役割などを十分知っていただき、地域に聞かれた事業所にしたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、必ず案内を出し参加していただいている。また、書類や処理上で分からないことがあると電話で必ず相談している。		市の担当者は、ホームの状況、取り組みを熟知している。また、いつも的確なアドバイスをいただいている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の中に必要な人がいないため、取り組みしていない。	○	必要な人には、それらを活用できるよう支援し、関係機関への橋渡ししていくつもりである。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフの行き過ぎた言動があれば、管理者から注意している。	○	認知症高齢者であっても人として尊厳をもって接している。目に余ることはチームカンファレンス時、報告し改めるよう提案する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行っている。解約時には、特に注意し本人、家族の意向をうかがい確認している。</p>	<p>○</p> <p>解約時は後、居宅サービスを使うようになるので情報の提供(情報提供はすでに行っている)担当者会議などにも出席し、注意点を話していきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>自分の意見が言える方には、耳を傾け、思いを言葉で表せない方(高度の認知症の人)には、アセスメントシートで気持ちを知る取り組みを行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時は必ず最近の状態、体調について話すようにしている。金銭管理(預り金)については、利用料支払日に支出明細表を見せ、サインをいただいている。</p>	<p>体調不良で受診した時、検査結果などすぐに連絡し伝えている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を設置している。また、年に2回の家族会で家族だけで自由に話せる場を設け、後日疑問のすべて答える形をとっている。アンケート調査も実施している。</p>	<p>運営推進会議には、必ず1名は家族代表者に出席していただいている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>人員や入居決定者について、大事な決定事項など職員の意見や提案はほとんど活かされていない。</p>	<p>○</p> <p>合同カンファレンス時に部長や事務長、施設長の出席があり、意見は聞いてもらえる。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要なローテーションは組んでいる、緊急の場合にはスタッフ間で調整して支障のないようにしている。</p>	<p>○</p> <p>全体的にゆとりのあるスタッフの配置を心がける。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>他部署への移動は、ほとんどない。変わる場合は、利用者に合わせて伝え方をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員マニュアルの設備や県の認知症介護実践者研修への参加を行うと共に、研修参加後は必ず勉強会を開催している。		職員の立場、経験に応じた研修に参加するように勧めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流するのは研修時くらいで最近はない。グループホーム協議会への参加もない。	○	スタッフが他施設のスタッフと交流できる場を設けられるように取り組みたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	看護師は看護部長が意見を言える場所(食事会)をセッティングしてくれる。ボーリング大会や、忘年会などのストレス発散や各部署との交流を設けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	夏・冬の人事考課で、スタッフの意見を聞いてくれている。	○	努力して資格を取っても給料に反映されていない。もう少し向上心を持って働けるよう配慮が必要である。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居決定から入居までがとても短いので本人に会えないこともある。利用に至るまでに信頼関係を築くことは難しい。入居時は特に寄り添い、声掛けを多くしてなじみの関係をつくる努力をしている。	○	入居決定から入居に至るまでに、アセスメントを取ったりコミュニケーションをはかる時間が必要である。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家人の立場に立って話を聞き、家人の思いを理解(受けとめる)する努力をしている。	○	家族とも入居までにコミュニケーションをはかる時間が必要である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入院中の患者で、数日前の面会程度のため、見た目の把握はできている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間程度で入居になるためできていない。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできることは見守り、できないことは手助けし支えながら生活している。また、食事作りの時は、入居者の方に色々と教わっている。また、話す時間をつくっている。	○	もっと本人のペースでゆっくりと見守り、本人のできることを尊重していきたい。また、もっとコミュニケーションの時間を多く取りたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡をとった時や面会時に入居者の状況、変化を伝えたり、外出や外泊時にも家での状況を聞くことができている。散髪や外出などできることは家族にも協力してもらっている。	○	家族とのコミュニケーションし、もっと時間を多く取りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊の難しい入居者には、適度な声掛けを行い、面会に来てもらえるように呼びかけている。足の遠い方には、電話連絡をしている。	○	家族の負担にならないようにする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い出の場所にドライブに行ったり、入居前の友人に訪問してもらえるように呼びかけている。		今までと同様、本人の大切な場所にドライブしたりすることを大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士がコミュニケーションをとっている。また、コミュニケーションが困難な入居者には、職員が間に入っている。相性などにより座席も変えたりしている。	○	入居者の孤立を防ぐために、席の配置を考えたり、仲のいい入居者同士を近くに座ってもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も相談や支援している。	○	生け花のボランティアなど、家族との付き合いを続けている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を職員全員で協力し、本人主体で考えている。家族にもわかる範囲で、利用者の意向など情報提供をお願いしている。	○	センター方式を使用することによって、本人を主体にして考えることができる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、家族とスタッフで情報収集し、今までの生活歴や暮らしなど家族に聞くことができる。	○	生活歴や本人の得意なことを活かしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の出来事を記録し職員全員に引き継ぎ時、申し送りができる。	○	大切なことや重要なことはスタッフ専用のノートなども使っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を利用し本人のことをきちんと考え、職員全員でカンファレンス時に話し合い、家族の意見を聞きケアプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態に合わせ、ケアプランをカンファレンス時や必要時に見直している。スタッフ全員に意見を出してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の出来事を細かく記録し、新たに気づいた点などは口頭でも申し送りし、実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	記録だけでは申し送りが不十分なこともあるので、大切なことは口頭でも申し送りし、職員全員で情報を共有することができている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族から診察やリハビリの要請があった時は、スムーズに対応できている。	○	家族には、面会時や電話時に状態を伝え、要望や希望を聞くようにしてる。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現時点で必要性・本人の意向がないため行っていない。	○	必要時に備えてネットワークを広げておくようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	散髪や歯科のサービスは利用できているが、その他のサービスについては利用していない。	○	地域サービスが少ないため、交流が必要である。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族から要望があった時はすぐに受診している。かかりつけの病院に関しては、家族に協力をお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が併設されており、診察、治療、相談の支援は十分に整っている。職員も医師、看護師と意見交換を行っている。	○	年に数回、認知症の勉強会があり参加していて認知について知識の向上に努めている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム内に看護師が1人居り、何かあればすぐに相談し日常の健康管理に努めている。	○	入居者の体調が悪い時など、すぐに報告し受診している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員が面会に行ったりして状態を把握している。医師や看護師と情報交換し、職員も面会に行き、こまめに状態を把握するように努めている。	○	長期入院になったときの対応を考えたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族と十分に話し合い、方針を決めスタッフ全員で向き合う。	○	本人、家族の意向を最優先するように取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者がよりよく過ごせるように家族、医師、チームで「できること、できないこと」を明確にし、話し合いケアを実践している。	○	こまめに観察し、変化注意し何かあれば検討を行う。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、本人、関係者で話し合いをし、住み替えによるダメージを防いでいる。	○	住み替え後の支援を積極的にしていく。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者1人ひとりの人権を尊重した声かけ、対応を心がけている。個人情報についても職員全員、秘密保持を徹底している。	○ これからも今まで以上に、入居者1人ひとりに合った声かけ対応していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションなどを通して入居者の思いや希望を取り入れるようにしている。レクリエーションや外出など、入居者の意見は必ず聞いて取り込もうと心がけている。	○ これからも1人ひとりが物事を決めたり、納得した生活ができるように努め、自己表現できるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者1人ひとりのペースにあった生活支援を心がけている。買い物や散歩などの希望に対し、できる限り希望を聞いている。本人が嫌がる時は、日をずらしその人のペースで1日を送ってもらえるように支援していきたい。	○ 利用者のペースを大切にする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔馴染みの理容・美容室に行かれてる方もいる。また、本人の希望で移動美容室を利用している。	○ 服はなるべく入居者の方に選んでもらい、それを着てもらおうようにしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ盛りつけ、配膳、後片付けを職員と一緒にしている。	○ 週3回食事作りがあり、入居者の希望にそった献立を作成し、食事というものに全員関わってもらい食事を楽しんでもらっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつなど本人の好みを聞いたり、家族の方から聞き提供している。同じ物に片よらないようにする。	○ 買い物など、好きなものを選んでもらったり、家族から情報を得て嗜好品を提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	常に職員達と話し合い排泄時間を把握し実施している。	○	もっと生活パターンを知る必要がある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴表を作成し、ゆっくり入浴していただくように時間を多く取っている。	○	その人の性格を理解し、その人にあった声かけや介助を行っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中離床を働きかけ、夜間に安眠できるように支援している。横になる前にテレビをみたり、会話したりしてリラックスしてもらっている。	○	入居者1人ひとりの生活パターンを理解し、生活管理をしリズムを整えている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、できるだけ外出や散歩に行っている。雨の日は室内で体操などレクリエーションを行っている。できる人には献立表などを書いてもらっている。	○	入居者1人ひとりにあつたレクリエーションを考え、取り入れている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布を大切に所持していただいている。	○	家族にも協力を得て、持っている金額を職員が把握している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	入居者と話しをし、行きたい場所を聞きその人に合つた外出を実施している。故郷めぐりなど希望に応じている。	○	本人、家族に話を聞き参考にして外出に取り入れている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行つてみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とも話し合い、協力してもらえるように働きかけている。また、家族会で家族と共に出かける機会をつくっている。	○	体調をみながら積極的に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時、家族の都合に合わせて電話している。家族、知人からの電話、手紙もいただいている。	○	家族からも電話してもらえるように呼びかける。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、居室やリビングでゆっくり話ができるような雰囲気、環境づくりをしている。	○	面会者が、気軽に訪問できるような雰囲気づくりを続けていく。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本人にとって危険な場合、家族、チームで話し合い拘束しないケアを考え実施している。どうしても拘束が必要な場合は家族の承諾を得て実施している。	○	拘束をしないようなケアを考えていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にブザーマットを敷き、鍵をせず出入りするの分かるようにしている。入居者が不穏時、施錠する場合がある。	○	なるべく施錠しないように職員が付き添うようにしている。入居者が不穏の時は散歩やレクリエーションに誘い、気を紛らわせ施錠しないようにする。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの人権を尊重し、プライバシーに配慮しケアを行っている。	○	これからも入居者1人ひとりプライバシーに配慮し、様子観察を続けていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・はさみなどの刃物は危険なため、本人や家族に説明して職員が保管している。	○	使う際は職員が付き添う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書を使用し、事故が起きないようにチームで話し合いをしている。何かあればその都度話し合い、安全対策委員会にも月1回の出席と報告をしている。	○	月に1回安全対策委員会が院内で開かれ、他部署の報告を聞き、職員全員に周知事故防止に活かしている。また、年に1回安全対策の勉強会があり参加している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師より指導を受けている。訓練は定期的には行えていない。	○	定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を行い、他部署とも連携体制はとれている。	○	地域の方々への協力をもっと働かせたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時、家族と話し合い、意見交換をしている。必要であれば、電話連絡も行っている。	○	家族と話し合いコミュニケーションをとっていききたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルサインチェックを行い、健康状態を確認している。また、異常があれば報告している。状況により定期的にチェックもしている。	○	細かい申し送りや記録を心がけている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から作用についての説明、指導を受けている。薬効能書きもあり、確認はとれている。	○	副作用について観察している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動や乳製品、食物繊維の多い食事やおやつ、水分を工夫しスムーズな排便を促している。	○	食物繊維の多い食べ物を食事に取り入れたり、体を動かす時間を欠かさずもちたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず口腔ケアを勧め、実施している。歯科往診と合わせて、清潔保持に努めている。	○	本人に了承を得て必ず口腔の清潔保持状況のチェックを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別チェック表に記入して状態を把握している。栄養バランスの悪い入居者は補食で補っている。	○	水分摂取量が少ない入居者は、食事以外の時も常に摂取できるように心掛けている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルがあり対応についての取り決めがある。来訪者や家族の訪問時にも働きかけを行い、声かけて手洗い指導をしている。また、院内の感染防止対策委員会に参加し必要な知識を習得している。	○	来訪者や家族の訪問時にも働きかけを行い、声かけて手洗い指導をしている。また院内感染防止対策委員会に参加し必要な知識を習得している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の使用期限のチェックを行い、まな板・包丁・食器・冷蔵庫内の衛生管理はしっかり行えている。	○	入居者がキッチンを使う際は、手洗い、安全確認を念入りに行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関窓口では家族や近隣の人などが来訪時挨拶をして迎え入れている。職員が不在時はチャイムにてわかるようにしている。	○	もっと各ユニットごとに、家庭的な雰囲気づくりをしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や採光を心掛けている。入居者がくつろげる家具を置いたり季節の花を飾っている。	○	レクリエーションにて、入居者と一緒に季節を感じていただける作品を作り飾っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファで、仲の良い方同士で過ごしている。居室で一人で過ごす時間もとれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や日用品を持って来てもらい、家で生活されていた頃と近い環境で過ごせるようにしている。	○	家で生活されていた頃の部屋のイメージを家族や入居者本人から聴取して近づけるようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇を使用したり一日に数回換気している、トイレや居室には芳香剤なども置いている。エアコンの温度、風量に気をつけている。	○	入居者一人ひとりの体調管理に合わせて、居室の温度や湿度にも気をつけている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴槽には手すりがあり、自立して歩行できるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大きな掛け時計や手作りのカレンダーにより分かるようにしたり、トイレにも表札を着けている。	○	興奮や混乱した場合、早急に原因を見つけ混乱や失敗を繰り返さないように支援する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で花や野菜を栽培している。	○	ベランダでもプランターなどを利用し、簡単な植物などを栽培していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

天気の良い日はなるべく外出し、入居者の気分転換を図るよう心掛けている。‘楽しい‘と思えることを基本として、心身と生活の活性化を図れるようなレクリエーション活動を心掛けている。集団生活ではあるが(楽しみや喜び、心の安らぎを共有する仲間)利用者の好みを取り入れ、あくまでも個人を主体としたレクリエーションを心掛けている。入居者1人ひとり理解し、常に職員が近くにいる、孤独感や疎外感を感じないように努めている。